

成島先生のご回答

①日本動物園協会が作成した「動物福祉基準」は、一般にも公開されますか？

A.

「動物福祉規定」を日本動物園水族館協会 JAZA の公開ホームページからご覧いただけます。ホームページの右上にある MENU から JAZA について>資料集>日本動物園水族館協会動物福祉規定と辿ってください。

「動物福祉基準」ではありませんが、動物種別「飼育ガイドライン」は同じくホームページの右上にある MENU から JAZA について>適正飼育施設ガイドライン>個々の動物種(群)と辿ってください。

動物福祉基準については欧米や東南アジアなどの地域協会と同様、現時点では JAZA も公開を考えていないとのことでした。

②Standard は、内部審査(Internal audit)の仕組みと、内部、外部の審査結果をフィードバックする、改善の機会を義務付けていません。「動物福祉基準」では、改善の機会を義務付けていますでしょうか？

A.

今後、JAZA 加盟施設にたいして訓練を受けた審査員による動物福祉審査を行う予定です。とりあえず世界動物園水族館協会 WAZA に加盟している 10 施設を 2023 年末までに行う予定になっています。WAZA に加盟していない残りの施設には順次、審査を行っていきます。当然、審査で基準に見合っていないと判断された項目は改善が促されます。

③「動物福祉基準」を用いた園館のチェックについて、特定の審査員が、全国の加盟園館をチェックすると理解しました。もし、②で示した内部監査を実施すれば、審査員が全国加盟館に存在するので、園館の相互審査が可能となります。審査員の育成に時間は掛かりますが、動物福祉向上がより確実になると考えます。将来において全国の園館に所属する審査経験者を増やす予定はありますか？

A.

審査員は JAZA のブロック毎に研修をおこなって育成する予定です。基本的にブロックの審査員がブロック内の園館を審査することになります。当面、審査員の研修は英国ベースの Wild Welfare と連携しておこなっていきます。Wild Welfare は WAZA と連携して動物園や水族館で飼育されている動物の福祉向上の活動をされている団体です。

なお、動物福祉規程には各園館での自己点検の推進を定めており、それぞれも自主的に取り組んでいくこととなります。

④審査員が審査の際に用いる、チェックリストや、基準適合状態の例を示す規範例を作成しますか？チェックリストや規範例は、審査の公平性や審査員の育成に役立ち、園館の動物福祉基準に貢献するメリットと、規範例を超える動物福祉の実現を阻害するデメリットが生じると考えています。

A.

チェックリストを作成する予定です。

規範例を超える動物福祉の実現を阻害するデメリットが生じるとのご心配ですが、まずはJAZA 加盟園館すべての動物の福祉状態を底上げすることが大切だと考えます。

WAZA2015 は動物福祉戦略と 2023 ゴールでは、動物園動物の福祉向上を目的としており、JAZA の規程も基本的に同様の考え方で、基準のクリアが目的ではありません。

⑤Standard は、経営者の役割(例えば、動物福祉向上の重要性を認識し、動物福祉向上のために、組織を牽引し必要な資源を確保するなど)が規定されていません。「動物福祉基準」は、経営者の役割を定義していますでしょうか？

A.

動物福祉規定第3条に「会員および園館職員は、この規定を誠実に履行し、順守する義務および動物園および水族館で飼育管理する動物の動物福祉の向上に取り組む責務を負う。」

とあります。ここでいう会員は園館長(管理者)を指します。

⑥ ロンドン動物園は展示場に本物の木が生えていたり、複雑なエンリッチメントが施されてたり、動物の出身国のイメージの展示場なので、結構凝っていました。しかし、木に隠れて姿が見られない動物も結構居ました。後で調べると、動物には人に見られなくて良い権利があるのだとか。

日本の動物園に慣れていると、しっかり観察できるという面では断然日本がいいなと思いました。学生の頃、たまに動物園にスケッチに行っていたので、細部まで観察できるのはやっぱり良いです。掃除はコンクリートのほうがしやすいだろうから、湿気が多い日本だとそちらが衛生的でいいのかもと思いましたが、展示場に木や草くらい生えていても良いのでは子ども頃から不思議でした。特にサル山のサルを見ているといつも思います。先生の思う展示場というのは、どういったものが理想でしょうか。

A.

ロンドン動物園を見学されたのですね。見学者にとっては不便ですが、動物の立場に立てば展示動物が見学者の視線を感じないですむ場所を動物が選択できることが、動物園動物の福祉の向上のために必要とされています。動物が選択できる項目は見学者の視線に限らず、運動、食べ物、温度(日陰、寒さよけ、プールなど)、仲間との接触など多岐にわたります。動物が主体的に環境を選べることを実現した展示施設が理想です。

⑦私は動物園の飼育スタッフで、園内での動物福祉の推進に取り組んでおります。弊社の飼育に従事しているスタッフは約 130 名おり、動物福祉に対する意識と知識の統一が難しく考えております。全員が同じ意識と知識を持ち合わせる事は難しいかもしれませんが、多くのスタッフを巻き込みたいと考えております。その為の手法をご助言頂けると幸いです。(必読ではありませんが、e ラーニングや資料の提供等を行っているが実際に学んでいる数は 10 名程である状況です)

A.

質問者さまの日ごろの努力、すばらしいと思います。

しかし個人の努力だけで動物園動物の福祉向上をはかるのは困難です。施設として動物福祉の向上をはかるという組織目標をたて、そのために組織として不断の努力を重ねていく必要があります。園内で定期的に動物福祉向上に関するセミナーを開催する、チームにわけて相互に動物福祉状態をチェックして改善策を練るといった具体策が考えられます。日本動物水族館協会の総務委員会倫理福祉部に相談すると助言がもらえると思います。

⑧動物福祉とはかけ離れた飼育環境に置かれ、常同行動を続けていても一向に改善しようとならない動物園水族館もあります。そのような動物園水族館を、加盟協会を超えて監視、指導することは難しいのでしょうか。

先生の動画の中に「2023 年 WAZA 動物福祉目標として、WAZA、JAZA への園チェックを行う」とありますが、JAA への園チェックは難しいのでしょうか。自主性に任せては、なかなか改善が進まないかと危惧しています。

A.

日本動物園水族館協会 JAZA の理念に賛同した施設の集合体です。このため JAZA で決定された事項は JAZA 加盟施設の行動指針となりますが、JAZA に加盟していない施設には及びません。質問者さまのご懸念は理解できますが、JAZA の権限が及ぶ範囲をご理解いただきたく思います。

⑨ゾウの「はな子」のお話では欧米と日本の考え方の違いが表れ問題になったとのことですが、一般の方と専門家でも考えの差が生じ同じような問題が起きる(起きている)と思います。はな子の批判をしたのも専門家ではないのではないかと思います。そのようなとき、どのような対応をしているのか、今後どう対応していくことを考えているのか、をお聞きしたいです。

A.

一般の方に飼育している動物の実際のすがたを理解していただく機会を設け、動物園側と一般の方との間にある考えの違いを、少しでも埋めていくことです。

大切なのは動物が動物園という環境で良い状態でくらすことです。そのために動物園がどのように考えて動物を飼育しているか説明し、一般の方から寄せられる質問や心配に誠

実に答えていくことが、これからも必要だと思います。

⑩日本でも動物福祉への関心が高まっているのは良いことですが、一般人には適正飼育などの判断が難しく、誤った認識で批判をしたり迷惑をかけることも増えたりするのではないかと思います。

そのようなとき、動物園から個体の情報や現在の取り組みについて紹介があったり、別の専門知識を有する園や機関による調査や指導、説明があったりするとより適正飼育に近づき、一般の方からも理解が得られやすいのではないかと思います(その園の話では納得しない方もいると思われるので)。

現在、こういった意見や一般人からの批判に対して、個々の園館ではなく、日本の動物園全体として、何か対応は行われているのでしょうか。

A.

ご質問者のご意見に賛同しますが、日本では動物愛護及び管理に関する法律とその関連規定に定められている範囲で、飼育動物の管理に関する規制が行われています。著しい法令違反が思料される場合は、行政の査察官による調査などが行われています。

JAZA は動物園で飼育管理される動物の福祉の向上に向けて、自ら規定を整備し、現状の把握と今後の向上に取り組んでいく予定です。今後、加盟施設に対して該当施設以外の訓練された複数名による動物福祉状態チェックを順次行っていくことになっています。

⑪動画の中で先生が、「動物によるショーも、動物の能力を引き出して見せるようなものなら良いが、不自然な動作を訓練して教え込むようなものは動物をおとしめることになる。」と仰っておられました。

例えば、イルカショーはどちらに当てはまるものなのでしょうか。

高い知能やジャンプ力などを『活かしている』とも言えるかもしれませんが、調教のためにエサを制限する、妊娠中もショーをさせる、ステージに上がらせイルカの皮膚にダメージを与えるなど、動物福祉とはかけ離れたものに見えます。

また、狭く浅いプールで暮らすなど、飼育環境も動物福祉に配慮しているとは言い難いように思います。

私には、イルカショーは『カワイイ』とは思えず『かわいそう』とってしまうのですが、先生のような専門家から見るとどのように映るのでしょうか。

A.

水族館で催されている「イルカショー」を見ていても、きちんとイルカの生態や保全について説明している水族館と、パフォーマンスに特化している水族館とに分かれています。私が認めるショーは前者です。調教のために餌を制限する、妊娠を配慮しない等は認められません。

⑫動物を適正飼育するにはお金がかかる、入園料はもっと高くてもよいのではないか、というお話がありました。金銭面だけでなく、必要な知識や労力も膨大ですし、施設は老朽化・研究の発展による適正な施設の変化もあり改修し続けなければならず、ごもつともだと思えます。

私は動物園が好きでよく行きますが、入園料は安すぎると感じる人が多いです。職員の給与や待遇ももっと良くなってほしいです。しかし一方で、公立の園では安いということにも価値を感じます。もともと動物への関心が高い人は入園料が多少高くても動物園に行きます。ですが、動物園が教育普及の役割を担っている以上、本当に来てもらうべきは関心の低い人たちなのではないかと思えます。気軽に、ついでに、なんとなく訪れて、それがきっかけとなり関心を持ってもらうことや、あまり関心のない人が子供を連れていき、子供が興味をもってくれるということに大きな意味を感じます。そのとき金銭面でプラスにならなくても、訪れた人が将来的に研究者や獣医師となれば、社会に大きくプラスになることもあるでしょう。公営の施設はそのような役割も大事なのではないかと思えます。

自分自身も、もしかしたら、動物園は高いからと、子供の時に連れて行ってもらえていなかったり、学生時代に自分で行ったりしなかったら、今のように関心が高くなかったかもしれませぬ。

「関心がない人でも気軽に訪れられること」に対する考え、職員や動物が充実して過ごすための資金を得ることと両立する方法はあるのか、海外ではどのように考えられているのか、知見がありましたらお伺いしたいです。

A.

私も「関心がない人でも気軽に訪れられること」の効果は大きいと考えます。そのために

は動物園水族館を管理運営する自治体の長が同じ考えを持つこと、ひいては納税者の賛同が必要です。動物の飼育環境を改善するとともに、そこに働く人の労働環境を改善し、動物園が持っているいろいろな機能を十分発揮できる財政基盤を保障しなければなりません。しかし、自治体の財政状況を考えると厳しいと言わざるを得ません。

欧米の動物園は公立ではなく民間が多いようです。公立の施設でも飼育係の給与等の動物園運営の基本となる部分は負担するが、管理者の給与や保全活動は寄付に頼るところが多いようです。日本と欧米との寄付文化の違いと言えます。詳しくお知りになりたい場合は佐渡友陽一さんの著書「動物園を考える 日本と世界の違いを超えて」(東京大学出版会)の一読をおすすめします。

⑬ JAA 所属の水族館は、和歌山県太地町からイルカ追込み猟によるイルカを購入しているかと思います。

太地で行われているイルカ追込み猟が動物福祉に配慮していないとして、JAZA は、太地で捕獲されたイルカを購入することを禁止にし、それに反発する形で JAA に加盟した水族館もあると聞いています。しかしながら、昨今の動物福祉の意識向上の為か、JAA 所属の水族館のうち生体によるショーをやめるところが出てきています。

そういう水族館を JAZA に戻す事はできないのでしょうか。

(しながわ水族館は 2027 年度のリニューアルを機にイルカの展示を廃止するそうです。川崎水族館は、クジラやイルカを実寸大にてスクリーンに投影し観察できる仕組みを導入しました。千葉市で誘致しようとしている水族館は、映像によるショーを検討するとの情報があります。)JAA 所属の水族館が減り、JAZA 所属の水族館が増えていけば、犠牲になるイルカも減るのではないのでしょうか。

A.

JAZA の規約に賛同する動物園水族館であれば、入会申し込みが可能で、JAZA としての審査を経たのちに会員となることができます。JAZA を脱退した施設も例外ではありません。